

『まんでんスキル計算』を利用

香川県高松市立鬼無小学校教諭 戸高 誠子

① はじめに

くり返しドリル学習は、学んだことを定着させるために欠かせないものです。しかし、子どもたちは単調なくり返し学習をあまり好みません。「面倒くさい」というのが大きな理由です。子どもたちは、家庭では学習塾や習い事で時間が詰まっていて、「することがいっぱいある」という状況なのでしょう。

このような中で、何とかくり返しドリル学習を習慣化し、子どもたちが「できた」と満足感を味わえるような方法はないものかと試行錯誤を続けていました。

その課題を解決するために、私は『まんでんスキル計算』を利用しています。日々の教育活動の中で、教師も子どもたちも無理なく活用できて、「仕上げた」という満足感を持てるような活用方法を探りながら取り組んできました。

② 4年生の実態

算数では、4年生になると二段階思考・三段階思考で、見通しを持って問題解決をすることが必要になります。計算問題でも文章題でも、「たし算だけ・かけ算だけ」という思考から、「たし算をしてからかけ算」「ひき算をしてわり算、更にたし算」というように問題解決を進める力が必要になってきます。

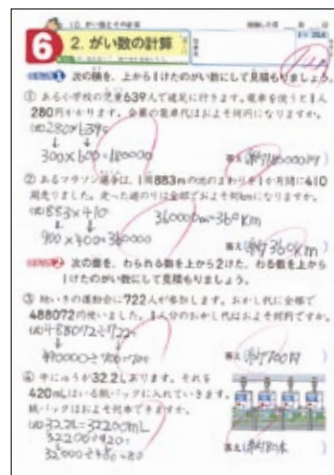
このような力をつけるためには、問題の全体

を把握し、解決のための見通しを持つ力が必要になります。そこで、『まんでんスキル計算』を使って、子どもたちがしてきたことを、1回目とは違う方法でくり返しドリルをさせれば、「自分の力でできた」という満足感を味わえるのではないかと考えて実践してきました。

③ 活用例

(1) 『まんでんスキル計算』に書き込む

このドリルは、書き込みスペースが多く確保されているので、大きな文字を書く子どもたちにとっても使いやすく、楽しみながら学習を進めることができます。



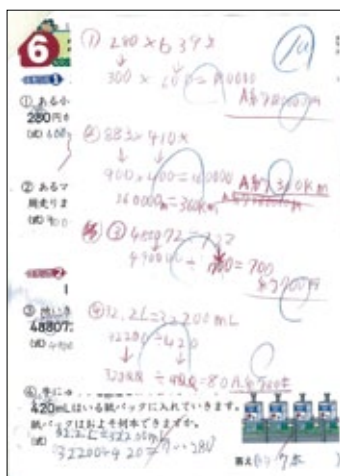
◀『まんでんスキル計算』の使用例。式や答えも書きやすい。

(2) 採点と直しの活動

余白のスペースに間違えた箇所を直します。しかし、どうしても直すスペースが不足する子

どもたちも出てきます。そのような時は、メモ用紙を配布します。1枚でだめなら、2枚、3枚とできるまでやり直しをします。

いつの間にか、ドリル全体が厚くなります。それは子どもたちの頑張りの足跡なのです。子どもたちに「こんなに頑張ったんだよ。」と声かけをすると、「ここがわからなくて困ったけれど、わかるようになってきたよ。」とか「問題の解き方がわかってきたよ。」などと、自分が乗り越えた「壁」を自分の言葉で語り、満足そうにする様子がたびたび見られるようになりました。



◀間違い直しをメモ用紙に書いてドリルに貼り付ける。

(3) ノートにくり返しドリル練習

自分で書き込んだドリルを再活用します。連休や夏休み・冬休みなどの長期休暇の宿題にします。自分で完成させたドリルをもう一度自分のノートに作り上げるのです。しかし、「やるよ」と言ってもすぐにはできるものではありません。

① まず、授業の中でノート指導を兼ねてやり方の説明をしました。子どもたちは日々の学習で、ノートは詰めてぎっしり書くのではな

く、余白を大切にしていってわかりやすく整頓して書く習慣を身につけていきました。初め子どもたちは、ノートに余白をとって書くことを「もったいない」と言っていたのですが、学習の足跡が残ることによってわかりやすくなり、納得できる復習ができたり、テストの点数が向上したりすると、気に入ったようで、教師の指示がなくても余白をとってノートを作る習慣が身につけていきました。

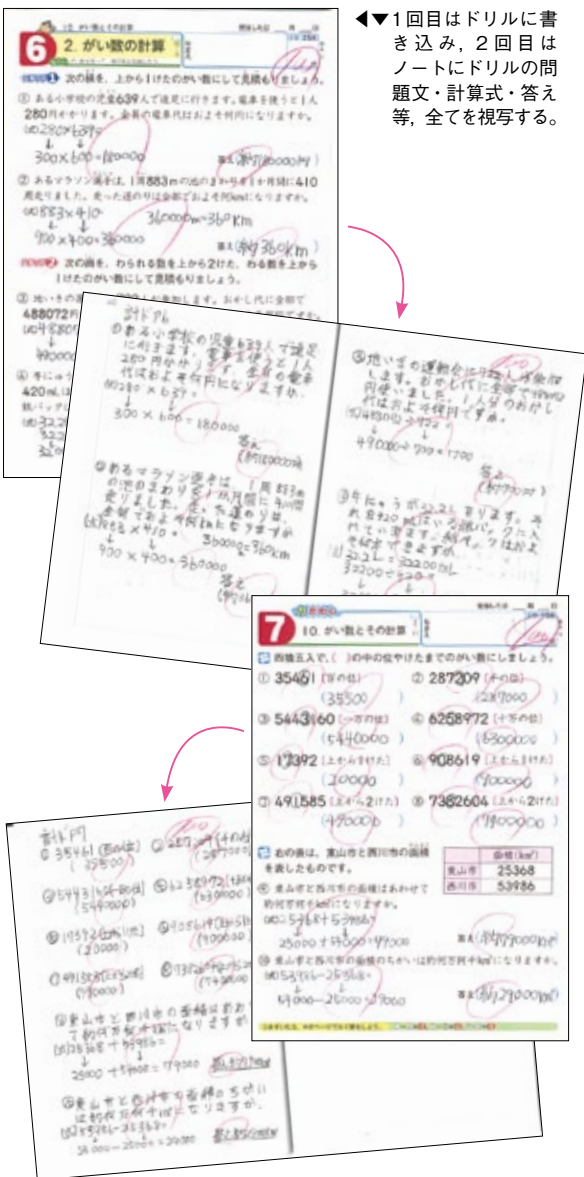
② 次に、この習慣がついた頃から、ドリルをノートにわかりやすく視写させました。もちろん全てのページの視写をするわけではありません。ポイントとなるページを抜粋して与えました。問題文・計算式・答え等、全てを視写します。自分で完成させたものを視写しても効果がないようにも思いましたが、結果は逆でした。子どもたちは見直しを持つようになりました。同じことを2回するのだから、見なくてもできるところは、自分の力でどんどん進めます。行き詰まると答えを見て確認するようになりました。

③ 最後に採点です。自分が作った1回目のドリルの答えを見ながら、採点をします。すると、「できた！」という歓声が上がりました。1回目は難問でも2回目は苦なくできます。これは意欲の向上につながりました。

このような流れを、毎日の宿題の中に入れ、少しずつ練習を重ねました。この一連の流れは、初めからうまくいくわけではありません。当初はわかりにくいノートもたくさん出てきました。そこで、わかりやすいノートとわかりにくいノートの比較をしました。比較することか

ら自分の課題が見つかりました。子どもたちは自覚したことは直すことができます。修正を積み重ねて自分のノートを完成させることによって、成果が出てきました。

1日の課題は1ページなので、子どもたちには負担にならないようでした。長期休暇には、一度にたくさん出すと、子どもたちが聞いただけで負担感を持ってしまうと考え、12ページくらい出しました。



(4) 『まんてんスキル計算』の中の言葉を「音読暗算カード」に活用

本学年では「音読暗算カード」を活用しています。B4用紙1枚に、2週間分の音読・暗算・読書・日記の宿題を載せています。学習の進度にあわせて、子どもたちが予習や復習をできるように作成しています。

その中の「暗算」は、算数の学習でポイントとなるようなことを暗唱するものです。例えば概数のところならば、

「0, 1, 2, 3, 4のときは切り捨てる。5, 6, 7, 8, 9のときは切り上げる。このしきたを四捨五入という。」

というような内容です。この言葉を、呪文のように何度もくり返して暗唱します。頑張っている子どもたちは1日10回以上暗唱しています。

▼音読暗算カード



耳から得る情報は大切です。いつの間にか覚えていきます。このときに使う言葉は、『まんてんスキル計算』の中の「忍たま乱太郎」のキャラクターが「知っておこう!」というコーナーで言っている言葉です。ドリルと暗唱の言葉が一致していることで、ドリルでしたことが再確認できます。

4 終わりに

学習を進めるにあたり、大切なことは「たくさん内容をつまみ食いの経験させる場面」と、「1つのことにじっくり取り組む場面」を使い分けることだと考えます。もちろん両方ともが大切なことは言うまでもありません。

算数は、単元によって違いますが、おおむね後者だと考えています。単元が変わっても学び方は同じです。既習事項を使って新たな課題を解決し、その中で「もっと速く、もっと正確に、もっと簡単に」という目標に向かって思考を練り上げるものだと考えています。

この学び方を身につける早道は、単純なドリル学習をくり返し、基礎・基本を身につけることだと思います。『まんてんスキル計算』を活用して、「毎日の授業・ドリルでのくり返し学習・暗算という耳からの学習」を関連させて、算数の力が向上することを願って指導を続けています。